

2008年 7月31日京都新聞朝刊に  
武田敏宏専務理事の『心筋症』に関する記事が掲載されました。

## 健康生活のススメ ～ 胸が重苦しい、息切れがする～ Q & A 専門医がお答えします

2008年7月31日 本報 20

### 循環器疾患の予防

#### 日本における心臓・胸部大血管子集

日本における心臓・胸部大血管子集の推移を示す棒グラフ。縦軸は死亡者数（千人）、横軸は年（1980～2005）。心臓疾患と胸部大血管疾患の両方で、死亡者数は年々増加傾向にあることが確認できる。

### 夜久均氏

#### 喫煙などの危険因子を排除

循環器疾患の予防には、喫煙や高血圧などの危険因子を排除することが重要である。専門医の指導のもと、生活習慣を改善することが効果的である。

### 身体からのシグナル

#### 不整脈

心電図や超音波で検査を行い、不整脈の有無を確認する。専門医の診断を受けることが大切である。

### 大動脈疾患

#### 日常的な血圧管理が大切

大動脈疾患の予防には、日常的な血圧管理が非常に重要である。専門医の指導のもと、血圧を適切にコントロールすることが必要である。

### 狭心症

#### 胸部の締めつけや圧迫感

狭心症の症状として、胸部の締めつけや圧迫感を感じる。早期の診断と治療が重要である。

### 心筋症

#### 毎日測定 体重増加に注意

心筋症の患者は、毎日体重を測定し、急激な体重増加に注意する必要がある。これは心不全の兆候の一つである。

### 早期の診断、治療が重要

#### 心筋梗塞

心筋梗塞の早期診断と治療が、予後を大きく改善させる。胸痛や息切れなどの症状を感じた場合は、すぐに医療機関を受診する必要がある。

バックナンバーはインターネットURL: <http://www.kyoto-np.co.jp/sp/medical/search/index> で見る事ができます。

実際の新聞記事

## 心筋症

- Q** 心筋症とは。
- A** 主な心筋症のうち拡張型心筋症は、心臓の内腔が拡張するのが特徴で、心臓の収縮力が低下し、うっ血性心不全をきたす病気です。ただし、すべてが心不全に陥るわけではありません。肥大型心筋症は、心筋が肥大して心臓の内腔が狭くなるため、心室の拡張力が低下して、若年者の突然死や壮年期の難治性心不全の原因となります。
- Q** 主な症状について。
- A** 拡張型心筋症は、息切れ、夜間（横臥時）の呼吸困難、動悸、疲れやすい、むくみなどを初期症状として受診されることが多く、進行すると安静時の呼吸困難や肝うっ血などによる食欲不振をきたし、全身の衰弱が著しくなります。肥大型心筋症は、無症状の場合が多く、健康診断で初めて指摘される方も多くおられます。症状のある場合は、心不全症状のほか、狭心症に似た胸の痛みや失神発作があります。

**Q** 日常生活の影響は。

**A** 禁煙、禁酒、塩分制限など心不全に対する一般的な生活習慣の改善が大事です。また、体重を毎日、同じ時間、条件で測定し、体重増加に注意する必要があります。心不全が軽症であれば、一日三十分週三回以上の運動が好ましいとされていますが、主治医の先生とよく相談する必要があります。肥大型心筋症の場合は、家族内発症が多いため、血縁者に肥大型心筋症がある場合は、一度、心エコー検査を受けていただきたいと思います。

2008年 7月31日付 京都新聞(朝刊) より